

1—1 国文学

研究・教育活動の概要と特色

国文学専攻分野では、文学を芸術の一種と捉えて、日本文学の様式・特質・展開を明らかにするとともに、その意義を世界文芸との関連において探究することを伝統的学風としてきた。同時に、作品の表現を丁寧に読み解くことを一貫して重んじ、偏りのない知識と読解力の習得を促しながら、学生ひとりひとりの関心を尊重して自己実現の手助けをするという教育方針の下、活発な研究・教育活動を進めてきている。卒業生は、約 1000 人に及び、国内外の学界・教育界・ジャーナリズム・出版界など、多方面で活躍している。現在も多くの大学院生・学部生・研究生が在籍する中、教員・学生を会員とする東北大学国文学会が組織され、毎年秋に研究発表大会を開催し、年度末には機関誌『日本文芸論叢』を発行するなど、旺盛な活動を継続している。また、本研究室には、国文学・国語学・日本思想史学の三つの専門分野の会員から成る学際的学会である日本文芸研究会の事務局が置かれ、活動の要としての役割を果たすとともに、この下部組織である上代・平安・中世・近世・近代の各小研究会は、本研究室の多くの学生が主体的に参加し運営しており、機関誌『文芸研究』（年 2 回発行）にも、本研究室の教員・学生が次々と論文を掲載している。さらに、本研究室には、助手・大学院生による自主的な研究団体として東北大学文芸談話会が組織され、毎年数回の研究発表会を開き、年刊の機関誌『日本文芸論稿』も発行している。

I 組織

1 教員数（2015 年 5 月 20 日現在）

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：佐藤伸宏、佐倉由泰

准教授：横溝 博

助教：

2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
49	4	9	7	0

3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	16	6	6
11	16	3	0
12	15	5	0
13	15	5	2
14	12	1	1
計	74	20	9

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
10	6	2	8
11	1	1	2
12	0	0	0
13	0	4	4
14	1	1	2
計	8	8	16

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

三浦一朗、2010年度、『『雨月物語』論』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、

准教授・横溝博

野口哲也、2010年度、『泉鏡花研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

韓吉子、2010年度、『樋口一葉研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

寺澤浩樹、2010年度、『武者小路実篤の研究—美と宗教の様式—』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

鈴木早苗、2010年度、『『源氏物語』の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰 (主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

高橋由貴、2010年度、『大江健三郎研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

高橋宏宣、2010年度、『太宰治研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

渡辺仁史、2010年度、『平安文芸史の記述に関する研究』

審査委員：教授・佐倉由泰 (主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

久保堅一、2011年度、『『源氏物語』の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰 (主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

中村三春、2011年度、『言葉の意志 有島武郎と芸術史的展開』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫

李英敬、2013年度、『中世紀行文芸の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰 (主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

平林香織、2013年度、『西鶴浮世草子の新研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫

堀竜一、2013年度、『日本近代文学における超越的なものへの志向性の研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
呉羽長、2013年度、『源氏物語の創作過程の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

津田大樹、2014年度、『古代和歌表現の機構と展開』

審査委員：教授・佐倉由泰(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

河内聡子、2014年度、『雑誌『家の光』の研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	5	12	2	0	19
11	5	5	2	0	12
12	1	5	0	0	6
13	2	6	0	0	8
14	1	6	1	0	8
15	0	0	0	0	0
計	14	34	5	0	53

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	0	4	6	1	11
11	0	8	12	0	20
12	0	5	2	0	7
13	1	9	1	0	11
14	0	8	2	0	10
15	0	0	0	0	0
計	1	34	23	1	59

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

久保堅一「執着する薫—「わがもの」「おのがもの」に着目して—」, 東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号, 2011年1月.

久保堅一「『今とりかへばや』宰相中将論—薫の執着の継承—」, 東京大学国語国文学会『国語と国文学』第88巻4号, 2011年4月.

久保堅一「「ありがたの世」を嘆く男たち—『源氏物語』蜻蛉巻の薫の位相」, 日本文芸研究会『文芸研究』第173号, 2012年3月.

鈴木早苗「『源氏物語』朝顔巻の藤壺—『竹取物語』のかぐや姫を視座として—」, 中古文学会『中古文学』第85号, 2010年6月.

高橋由貴「火葬される「書記」の死—大江健三郎「飼育」における戦争—」, 『国文学 解釈と鑑賞』第75巻9号, 2010年8月.

高橋由貴「哀傷の言葉—宮澤賢治「無声慟哭」における喪失の語り方について」, 東北大学臨床死生学研究会『東北大学臨床死生学研究会研究報告』, 2010年10月.

高橋由貴「記憶の選択、記憶の構築—映画「ワンダフルライフ」を考える」, 東北大学臨床死生学研究会『東北大学臨床死生学研究会研究報告』, 2010年10月.

高橋由貴「「不意の唾」における「通訳」の言葉—大江健三郎と遅れてきた戦争(上)」, 東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号, 2011年1月.

高橋由貴「「人間の羊」における沈黙を囲む饒舌—大江健三郎と遅れてきた戦争(下)」, 東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第20号, 2011年3月.

高橋由貴「大江健三郎における深瀬基寛訳『オーデン詩集』の受容—「政治と性」の淵源としてのオーデン—」, 日本比較文学会『比較文学』第53巻, 2011年3月.

高橋由貴「組み換えられる〈われわれ〉—大江健三郎「戦いの今日」と冷戦構造下の日本」, 東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第21号, 2012年3月.

- 仁平政人「川端康成「青い海黒い海」論—言葉の〈速度〉と〈遅れ〉—」，
日本文芸研究会『文芸研究』第170集，2010年9月。
- 仁平政人「『猫道楽』—隠語の詩学、あるいは〈猫〉を飼わないと言う作法—」，『現代女性作家読本 長野まゆみ』，鼎書房，2010年10月。
- 仁平政人「「漫想」する言葉—尾崎翠における「映画」の翻訳—」，東北
大学国文学研究室『日本文芸論叢』第20号，2011年3月。
- 仁平政人「『マリカの永い夜／バリ夢日記』—テキストの旅・〈夜〉の輝
き—」，『現代女性作家読本 よしもとばなな』，鼎書房，2011年7
月。
- 江明瑾「過剰化された人間性の物語—太宰治「裸川」論」，東北大学文学
会『文化』第75巻3・4号，2012年3月。
- 韓吉子「樋口一葉「われから」論—「鬱ぎ」込む妻たち—」，東北大学文
学会『文化』第74巻第1・2号，2010年9月。
- 河内聡子「『家の光』の誌面改良—梅山一郎の編集態度を中心に—」，リ
テラシー史研究会『リテラシー史研究』第4号，2011年1月。
- 河内聡子「『家の光』の普及に関する—考察—産青連と反産業組合運動—」，
東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月。
- 河内聡子「昭和前期の農村地域における〈共同体〉の編成とその機能」，
社会システム研究会『社会システム研究』第22号，2011年3月。
- 河内聡子「制度とメディア—『家の光』創刊の経緯に見る—」，東北大学
国文学研究室『日本文芸論叢』第20号，2011年3月。
- 河内聡子「国定教科書取次販売所における取引の現場を辿る—長野県—書
肆の事例を追って」，和田敦彦編『国定教科書はいかに売られたか—
近代出版流通の形成』，ひつじ書房，2011年3月。
- 河内聡子「創刊期『家の光』における課題としての〈農村〉」，東北大学
国文学研究室『日本文芸論叢』第21号，2012年3月。
- 河内聡子「昭和前期農村における活字メディアの展開と受容—産業組合の
出版活動を中心に—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第35号，
2012年3月。
- 河内聡子「大原幽学の発見—「日本的産業組合」の創出と歴史叙述の転換
を巡って—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』36号，2013年3
月。

- 岸本洋輔「鎌倉本『保元物語』論—〈類〉を指向する歴史叙述—」，東北大学文学会『文化』第75巻第1・2号，2011年9月。
- 岸本洋輔「流布本『承久記』における身体・生命・倫理—〈小さな物語〉の連続に着目して—」，軍記・語り物研究会『軍記と語り物』第48号，2012年3月。
- 岸本洋輔「研究展望 平家物語（二〇一〇年一〇月～二〇一一年九月）」，軍記・語り物研究会『軍記と語り物』第49号，2013年3月。
- 大木葉子「雑誌『乳樹（チチノキ）』とモダニズム—児童文学史上におけるその可能性—（下）」，日本文芸研究会『文芸研究』第170集，2010年9月。
- 大木葉子「鈴木三重吉「赤い鳥」の標榜語」，加藤理編『児童文化の原像と芸術教育』，港の人，2011年7月。
- 大木葉子「原抱一庵「少年小説 新年」論—その固有性の内実について—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』36号，2013年3月。
- 大木葉子「「権狐」成立の背景にあるもの—その描写の特質に注目して—」，日本児童文学会『児童文学研究』第46号，2014年3月。
- 大木葉子「「手袋を買ひに」論—同時代との交差を視座に—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』37号，2014年3月。
- 大木葉子「『赤い船』がもたらしたもの—小川未明『おとぎばなし集 赤い船』の位相」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第24号，2015年3月。
- 黒澤佑司「郷愁の射程—嵯峨の屋おむろ「初恋」論—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月。
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』の修辞学—Associationism（連合主義）を視座として—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月。
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』と〈同感(sympathy)〉の原理（上）—「(F+f)」と「間隔論」を中心に」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第21号，2012年3月。
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』と〈同感(sympathy)〉の原理（下）—「趣味」の概念と「還元的感化」を中心に」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第35号，2012年3月。

- 木戸浦豊和「Sympathyの文学論—夏目漱石『文学論』における「同感」と「同情」をめぐる—」, 日本近代文学学会『日本近代文学』第88集, 2013年5月.
- 木戸浦豊和「夏目漱石とヴァーノン・リー(Vernon Lee)—文学と感情について—」, 日本近代文学学会『東北支部 会報』第49号, 2014年11月.
- 木戸浦豊和「夏目漱石における〈感情〉の文学論—C・T・ウィンチェスター『文芸批評論』とレオ・トルストイ『芸術とはなにか』を視座として—」, 日本比較文学学会『比較文学』第57巻, 2015年3月.
- 渡邊美希「『枕草子』「心にくきもの」章段考—「聴くもの」から「見るもの」へ—」, 東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』37号, 2014年3月.
- 百井順子「『伊勢物語』東下りの旅—〈男〉の出立を中心として—」, 東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第24号, 2015年3月.
- 本多遥「小林秀雄「私小説論」考(上)—「リアリズム」と「文学的リアリティ」をめぐる—」, 東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』23号, 2014年3月.
- 伊澤亮太「著書紹介 仁平政人『川端康成の方法—20世紀モダニズムと「日本」言説の構成—』」, 東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』36号, 2013年3月.
- 伊澤亮太「『三四郎』論—長編小説の成立と写生文—」, 東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第23号, 2014年3月.
- 笠間はるな「揺れ動く女夜叉の本性—樋口一葉「やみ夜」論—」, 日本文芸研究会『文芸研究』第174集, 2012年9月.
- 笠間はるな「月が照らす「妙変」—樋口一葉「軒もる月」論—」, 東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第22号, 2013年3月.
- 笠間はるな「「百花爛熳の世へ」—樋口一葉「琴の音」論—」, 東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第23号, 2014年3月.

阿部愛美「賢治童話研究—デクノボーの複数性—」，盛岡大学日本文学会『日本文学会学生紀要』第22号，2014年3月。

小澤恵里奈「『枕草子』「五月の御精進のほど」における「雨」の表現—郭公探訪の表現と構成意図を巡って—」，東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第24号，2015年3月。

滝沢美子「『蜻蛉日記』養女求婚譚における道綱母—仲介者という機能に着目して—」，東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第24号，2015年3月。

福士陽子「『源氏物語』における宿世観」，盛岡大学日本文学会『日本文学会学生紀要』第23号，2015年3月。

(2) 口頭発表

久保堅一「蜻蛉巻の薫」，古代文学研究会2010年度大会，伊勢かぐらばりゾート 千の杜，2010年8月10日。

鈴木早苗「御法巻の紫の上—葬送場面の情景描写に注目して—」，日本文芸研究会第63回研究発表大会，東北大学，2011年6月12日。

高橋早苗「『白露』論—「思ひ知れ」歌の解釈を中心に—」，東北大学文芸談話会平成23年度第3回研究発表会，東北大学，2012年2月21日。

高橋由貴「沈黙を囲む饒舌—大江健三郎「人間の羊」論—」，東北大学文芸談話会平成22年度第1回研究発表会，東北大学，2011年1月25日。

高橋由貴「大江健三郎と原民喜—「夏の花」の評価をめぐる—」，第24回原爆文学研究会研究発表会，立教大学，2011年5月7日。

高橋由貴「オーデンの詩を「核（コア）」とする小説—大江健三郎「狩猟で暮したわれらの先祖」論—」，日本文芸研究会・日本思想史研究会共催研究発表会，東北大学，2011年9月10日。

高橋由貴「大江健三郎の核時代観—深瀬基寛訳のオーデン「支那のうへに夜が落ちる」の受容—」，東北大学文芸談話会平成23年度第3回研究発表会，東北大学，2012年2月21日。

仁平政人「「翻訳」の文芸学—尾崎翠テキストの分析を起点に—」，日本文芸研究会第62回研究発表大会，福島大学，2010年6月19日。

仁平政人「稲垣足穂「一千一秒物語」をめぐる絵画／文学の交叉—言葉と図像の翻訳（不）可能性—」，東北大学文芸談話会平成23年度第2回

- 研究発表会，東北大学，2011年9月6日。
- 仁平政人「「チェホフ」という地下室—尾崎翠「地下室アントンの一夜」をめぐって—」，日本比較文学会東北支部第9回比較文学研究会，東北大学，2011年7月30日。
- 飯田真弓「『萬葉集』巻六・一〇一七番歌 大伴坂上郎女歌論—「廬」「野辺」に着目して—」，第32回萬葉語学文学研究会，奈良女子大学，2010年9月25日。
- 大木葉子「創刊期『赤い鳥』の表紙絵」，東北大学文芸談話会平成23年度第2回研究発表会，東北大学，2011年9月6日。
- 大木葉子「前期『赤い鳥』と関東大震災」，日本近代文学会東北支部大会，秋田市カレッジプラザ，2011年12月24日。
- 岸本洋輔「流布本『承久記』における身体・生命・倫理—〈小さな物語〉の連続に着目して—」，軍記・語り物研究会2011年度大会，かながわ女性センター，2011年9月1日。
- 河内聡子「雑誌『家の光』における〈農村〉の射程—誌面改良の動きを巡って—」，日本文芸研究会平成22年度第2回研究発表会，東北大学，2010年12月11日。
- 河内聡子「史料としての図像—雑誌『家の光』における女優表象を中心に—」，東北大学文芸談話会平成23年度第2回研究発表会，東北大学，2011年9月6日。
- 河内聡子「手段としての文学—賀川豊彦における農民文学の実践—」，日本文芸研究会第64回研究発表大会，東北大学，2012年6月17日。
- 河内聡子「雑誌連載小説の機構—賀川豊彦『乳と蜜の流るゝ郷』を端緒として—」，日本近代文学会2013年度春季大会，法政大学，2013年5月29日。
- 河内聡子「特集される〈伝説〉—雑誌『家の光』における伝承文学の収集を巡って—」，伝承文学研究会平成25年度大会，長野県立短期大学，2013年9月8日。
- 河内聡子「『乳と蜜の流るゝ郷』試論」，賀川豊彦学会研究発表会，明治学院大学，2014年7月26日。
- 河内聡子「賀川豊彦と『家の光』—連載小説「乳と蜜の流るゝ郷」をめぐって—」，賀川豊彦研究会第1回例会，賀川豊彦記念松沢資料館，2014

- 年 11 月 8 日.
- 河内聡子「農民日記をつづるということ—近代農村における日記行為の表象をめぐって」, 「近代日本の日記文化と自己表象」第 3 回研究会, 国文学研究資料館, 2015 年 3 月 7 日.
- 黒澤佑司「「自伝」という方法—嵯峨の屋おむろ『無味気』をめぐって—」, 日本文芸研究会第 62 回研究発表大会, 福島大学, 2010 年 6 月 20 日.
- 黒澤佑司「テキストと批評をめぐる動態—嵯峨の屋おむろ「くされたまご」を中心として—」, 東北大学国文学会平成 22 年度研究発表大会, 東北大学, 2010 年 11 月 13 日.
- 島南風「身体への視座—『太平記』論—」, 東北大学文芸談話会平成 22 年度第 2 回研究発表会, 東北大学, 2011 年 3 月 1 日.
- 大平千波弥「『平家物語』における行盛とその和歌」, 東北大学文芸談話会平成 22 年度第 2 回研究発表会, 東北大学, 2011 年 3 月 1 日.
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』と心理学—Associationism (連合主義) の問題を中心に」, 日本比較文学会 2010 年度東北大会, 岩手大学, 2010 年 12 月 4 日.
- 木戸浦豊和「文学的内容の形式「(F+f)とは何か?—夏目漱石『文学論』の冒頭をめぐって」, 日本文芸研究会第 63 回研究発表大会, 東北大学, 2011 年 6 月 12 日.
- 木戸浦豊和「〈同感(sympathy)〉の文学論—夏目漱石『文学論』を中心に」, 日本比較文学会北海道支部・東北支部共催比較文学研究会, 北海学園大学, 2012 年 3 月 17 日.
- 木戸浦豊和「〈同情〉の批評論—大西祝と田岡嶺雲」, 日本文芸研究会平成 24 年度第 2 回研究発表会, 東北大学, 2012 年 12 月 8 日.
- 木戸浦豊和「情緒・同情・非人情—夏目漱石『文学論』から「草枕」へ—」, 東北大学文芸談話会平成 23 年度第 4 回研究発表会, 東北大学, 2012 年 3 月 12 日.
- 木戸浦豊和「二つの〈写生文〉—夏目漱石の〈同情〉概念を視座として」, 日本比較文学会北海道支部・東北支部共催第 2 回比較文学研究会, 仙台市青年文化センター, 2013 年 3 月 16 日.
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』の位相—同時代における英語圏の文学理論・芸術論との比較・対照から」, 日本近代文学会国際研究集会, 日

- 本大学，2013年12月1日。
- 木戸浦豊和「印象(Impression)・表現(Expression)・同情(Sympathy)―夏目漱石における表現理論(Expression Theory)」，日本比較文学会東北支部第12回比較文学研究会，仙台市戦災復興記念館，2014年7月26日。
- 木戸浦豊和「〈悲劇〉の時代―明治二〇年代における〈感情〉と〈同情〉の批評言説」，日本近代文学会東北支部冬季大会，仙台市ビジネスホテル，2014年12月23日。
- 木戸浦豊和「漱石とモリス―北欧神話受容の一端」，仙台・羅須地人協会主催「ワイリアム・モリスと夏目漱石、それから宮沢賢治」，仙台市文学館，2015年2月15日。
- 高橋美希「朱雀院の共感と葛藤―女三宮降嫁を起点として―」，東北大学文芸談話会平成23年度第1回研究発表会，東北大学，2011年7月19日。
- 渡邊美希「『名所絵』としての国宝『源氏物語絵巻』『関屋』巻一過去としての空蟬物語―」，東北大学文芸談話会平成25年度研究発表会，東北大学，2013年8月19日。
- 小野貴裕「薫の道心―宿木巻を起点にして―」，東北大学国文学会平成22年度研究発表大会，東北大学，2010年11月13日。
- 芋田由樹「川上弘美『蛇を踏む』論―結末部をめぐって―」，東北大学国文学会平成23年度研究発表大会，東北大学，2011年11月12日。
- 本多遥「小林秀雄における『伝統』意識―『実朝』論―」，東北大学文芸談話会平成23年度第5回研究発表会，東北大学，2012年3月15日。
- 本多遥「小林秀雄『私小説論』考」，東北大学文芸談話会平成24年度第2回研究発表会，東北大学，2013年3月30日。
- 本多遥「小林秀雄『私小説論』考―『リアリズム』と『文学的リアリティ』をめぐって―」，日本比較文学会東北支部第11回比較文学研究会，仙台ビジネスホテル，2013年7月27日。
- 百井順子「『最勝四天王院障子和歌』と『伊勢物語』」，東北大学文芸談話会平成25年度研究発表会，東北大学，2013年8月19日。
- 百井順子「『伊勢物語』初段の構造」，平安文学懇話会，東北福祉大学，2014年3月15日。
- 百井順子「『伊勢物語』の和歌」，日本文芸研究会平成26年度第1回研究

- 発表会，仙北市立角館樺細工伝承館，2014年10月18日。
- 添田千尋「隠岐本『新古今和歌集』論—後鳥羽院詠歌の削除をめぐる—」，
東北大学国文学会平成23年度研究発表大会，東北大学，2011年11月
12日。
- 伊澤亮太「『行人』論—〈構成の破綻〉をめぐる—」，東北大学国文学
会平成23年度研究発表大会，東北大学，2011年11月12日。
- 伊澤亮太「『草枕』論—ジャンルを越えるテクスト—」，東北大学，日本
文芸研究会平成25年度第1回研究発表会、2013年9月7日。
- 于楽「覚一本『平家物語』論—忠度・和歌・帰る場所—」，東北大学文芸
談話会平成24年度第1回研究発表会，東北大学，2012年4月10日。
- 于楽「『平家物語』において乳母子が担うもの—その過剰性に着目して—」，
東北大学国文学会平成24年度研究発表大会，東北大学，2012年11月
10日。
- 于楽「『平家物語』における不和と親和—後白河院、高倉院をめぐる関係
に着目して—」，日本文芸研究会第66回研究発表大会，東北大学，2014
年6月14日。
- 佐藤友久「大岡昇平『花影』論—葉子の死をめぐる—」，東北大学国文学
会平成25年度研究発表大会，東北大学，2013年11月16日。
- 笠間はるな「樋口一葉「やみ夜」論—「女主」としてのお蘭をめぐる—」，
東北大学国文学会平成23年度研究発表大会，東北大学，2011年11月
12日。
- 笠間はるな「樋口一葉「軒もる月」論—「夢路」を照らす「月」と身に添
う「影」への眼差し—」，日本近代文学会東北支部平成24年度夏季大
会，岩手県民会館，2012年7月7日。
- 笠間はるな「樋口一葉「琴の音」論—「八面玲瓏」の月と『文学界』」，
日本近代文学会東北支部平成25年度夏期大会，2013年7月6日，
福島大学。
- 笠間はるな「「にごりえ」論と〈深刻小説〉のあいだ」，日本文芸
研究会平成26年度第2回研究発表会，2014年12月13日，東北
大学。
- 小澤恵里奈「『枕草子』の表現をめぐる—考察—「五月の御精進のほど」
を中心に—」，東北大学国文学会平成25年度研究発表大会，東北大学，

2013年11月16日.

滝沢美子「『蜻蛉日記』論一道綱の仲介者としての機能に着目して一」, 東北大学国文学会平成26年度研究発表大会, 東北大学, 2014年11月15日.

村上謙造「戦後短歌における「方法論争」—「調べ」の問題を視座として一」, 東北大学国文学会平成26年度研究発表大会, 東北大学, 2014年11月15日.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2011年度, DC2, 採用, 1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
10	2	3	5
11	0	1	1
12	1	3	4
13	2	3	5
14	2	1	3
15	4	0	4
計	11	11	22

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	3	1	4
11	2	0	2
12	1	1	2
13	0	2	2

14	0	1	1
15	0	0	0
計	6	5	11

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人（2010年度～2015年5月20日）

7-1 専攻分野出身の研究者

王嘉臨	台湾淡江大学	専任講師	2010年度
三浦一朗	弘前学院大学	准教授	2011年度
久保堅一	仙台高等専門学校	専任講師	2011年度
仁平政人	弘前大学	専任講師	2011年度
高橋早苗	東北大学	助教	2011年度
高橋由貴	福島大学	准教授	2012年度
野口哲也	都留文科大学	准教授	2012年度
山崎義光	秋田大学	准教授	2013年度
高橋早苗	新潟大学	准教授	2013年度
星山健	関西学院大学	教授	2014年度
久保堅一	鳥取大学	准教授	2014年度
空井伸一	愛知学院大学	准教授	2014年度
野坂昭雄	山口大学	准教授	2015年度
三浦一朗	武蔵野大学	准教授	2015年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 26名

8 客員研究員等の受け入れ状況（2010年度～2015年5月20日）

客員研究員

台湾 淡江大学	顧錦芬 講師	2010年7月4日～8月5日	宮澤賢治童話の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]
大韓民国 祥明大学校	梁東国 教授	2013年4月1日～2014年2月28日	茨木のり子の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]
中国 北京科学技術大学	李光華 副教授	2013年4月1日～2014年3月31日	日本近代文芸における「家」 [受入教員 佐藤伸宏教授]

授]

中国 蘇州科技大学 徐志紅 準教授 2014年9月1日～2015年8月
30日 中古・中世の説話集と中国関係文献の比較研究 [受入教員
佐倉由泰教授]

東北大学大学院文学研究科リサーチフェロー

台湾 慈濟大学 高恵玲 講師 2010年7月8日～2010年8月5日
志賀直哉の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]

大韓民国 漢陽女子大学 李英敬 教授 2010年7月20日～2010年8
月7日 中世紀行文芸の研究 [受入教員 佐倉由泰教授]

大韓民国 漢陽女子大学 李英敬 教授 2012年8月2日～2012年8月
13日 中世紀行文芸の研究 [受入教員 佐倉由泰教授]

9 外国人研究者の受け入れ状況

上記の客員研究員等のほかは なし。

10 刊行物

『日本文芸論叢』（東北大学国文学会・1982年3月より年刊を原則とし
て刊行）

『日本文芸論稿』（東北大学文芸談話会・1867年7月より年刊を原則と
して刊行）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度

日本文芸研究会事務局

2011年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第63回総会・研究発表大会 開催事務局（6月11・
12日）

2012年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第64回総会・研究発表大会 開催事務局（6月16・

17日)

2013年度

日本文芸研究会事務局

中古文学会秋季大会 開催事務局 (10月26・27日)

2014年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第66回総会・研究発表大会 開催事務局 (6月14・15日)

2015年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第67回総会・研究発表大会 開催事務局 (6月6・7日)

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010年度

東北大学国文学会平成22年度研究発表大会 2010年11月13日

東北大学文芸談話会平成22年度第1回研究発表会 2011年1月25日

東北大学文芸談話会平成22年度第2回研究発表会 2011年3月1日

2011年度

東北大学文芸談話会平成23年度第1回研究発表会 2011年7月19日

東北大学文芸談話会平成23年度第2回研究発表会 2011年9月6日

東北大学国文学会平成23年度研究発表大会 2011年11月12日

東北大学文芸談話会平成23年度第3回研究発表会 2012年2月21日

東北大学文芸談話会平成23年度第4回研究発表会 2012年3月12日

東北大学文芸談話会平成23年度第5回研究発表会 2012年3月15日

2012年度

東北大学文芸談話会平成24年度第1回研究発表会 2012年4月10日

東北大学国文学会平成24年度研究発表大会 2012年11月10日

東北大学文芸談話会平成24年度第2回研究発表会 2013年3月30日

2013年度

東北大学国文学会平成25年度研究発表大会 2013年11月16日

東北大学文芸談話会平成 25 年度研究発表会 2013 年 8 月 19 日

2014 年度

東北大学国文学会平成 26 年度研究発表大会 2014 年 11 月 15 日

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

国文学専攻分野では、作品の表現を丁寧に読み解くことを一貫して重んじ、偏りのない知識と読解力の習得を促しながら、学生ひとりひとりの関心を尊重して自己実現の手助けをすることを目標にして、毎年、多くの学生の教育に当たってきたが、過去 5 年間ににおいても、十分な実績・成果を挙げてきたと評価できる。全国的に就職状況が未だよいとは言えない状況にあっても、多くの前途有為な卒業生・修了生が希望の進路で活躍することがかなうような教育活動が実現できたと思う。多くの学生が本専攻分野で学ぶことを希望するが、そうした学生の意欲や関心に十分応えられる教育がなされていると考えていだろう。毎年、約 70 名余の学生が在籍し、2010 年度～2014 年度の 5 年間に、74 名（平均 15 名）が学部を卒業し、20 名（平均 4 名）が博士課程前期を修了し、博士課程後期の学生についても、ここ 5 年間で 9 名が修了もしくは満期退学した。なかでも、ここ 5 年の間に、県立高校の教員を中心に、中学校・高等学校の教員として、26 名の卒業生・修了生・博士課程後期退学者が採用され、また大学等の研究機関には研究者として 14 名が奉職したこと（常勤講師・非常勤講師を加えればその数はさらに増える）は、中高等学校・大学を問わず教員になることが難関となっている昨今の状況を考え合わせるに、特筆すべき実績と言えよう。留学生に対しても、毎年数名の優秀な学生を選抜して受け入れて教育に当たり、大きな成果を挙げており、国際社会への貢献度も少なくない。また、本専攻分野は、高度職業人の養成という社会的要請にも十分に応えており、現在、博士後期課程に 1 名の社会人学生が在籍し、充実した修学・研究を重ねている。

本専攻分野の組織としての研究活動も十分評価できるものと考えている。確かに、全国的な厳しい状況を反映して、大学・短期大学・工業高等専門学校の常勤の職に就くのがきわめて難しい現状にあるが、そうした中でも、今年になって、改善の兆しが見え始めている。しかも、研究活動自体は一向に衰えることはなく、きわめて活発に進められている。特に、大学院の学生の論文発表の充実ぶりは顕著で、その全体の数はもとより、審査制学術誌に掲載されるケー

スも増加する傾向にある。大学院の学生の研究発表も質・量ともに年々その充実度を増している。日々の教育・研究の場において、テキストと正面から向き合い、細部をたいせつにして表現を丹念に読み解くことを一貫して重んじてきたことがこうした旺盛な研究活動を支えているものと理解される。その成果が高い評価を受け、この5年間に、公募により弘前学院大学・仙台高等専門学校・弘前大学・福島大学・新潟大学などに採用されていることは特筆に値しよう。

また、本専攻分野は、刊行物の刊行や研究会の開催等を活発に行うことはもとより、学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催にも進んでかわり、客員研究員・外国人研究者の受け入れにも積極的に対応しており、国内外の学術交流ネットワークの重要な要としての役割を担っている。そして、何よりも、博士学位の審査にも厳正に当たり、すぐれた実績・成果を示した研究者に正当に学位が授与されるよう真摯に努力を重ねている。

以上のように、国文学専攻分野の研究・教育活動は高く評価できるが、2006年度に実施された外部評価（評価者：今西祐一郎 九州大学大学院人文科学研究教授）も、その客観的な裏付け・根拠となる。当該外部評価においては、作品を正確に、「文芸」として味読・読解するという文学研究の基本が、研究・教育の場で着実に実践され、それが伝統として脈々と受け継がれていることをはじめ、本分野の教員・学生の研究に対し、①先見性・独創性、②実証性・堅実性、③継続性・持続性、④体系性、⑤学界・社会への影響・貢献、⑥学会活動への貢献のいずれについても、たいへん高い評価がなされている。

ただし、教育・研究には、これでよいと安心できるような到達点はない。学生が、進路のこと、修学のことなどで、とまどい悩むことも少なくない。よりよい教育・研究環境の創出とさらなる成果の充実を期して不断に工夫をこらし、努力を重ねる必要がある。教員全員が、学生ひとりひとりのよりよい自己実現のためにたゆまず努めることを強く心に念じている。

Ⅲ 教員の研究活動（2010年度～2015年5月20日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

佐藤伸宏 「1930年代フランスに於ける二冊の日本詩翻訳アンソロジー」,
『越境する言の葉』, 日本比較文学会, 彩流社, pp.249-259, 2011年6月.

- 佐藤伸宏 「翻訳された「サーカス」—オノマトペの翻訳（不）可能性をめぐって—」, 『中原中也研究』第 16 号, 中原中也の会, pp.123-133, 2011 年 9 月.
- 佐藤伸宏 「中原中也の詩の可能性(上)—「(ポロリ、ポロリと死んでゆく)」を起点として—」, 『文芸研究』第 176 集, 日本文芸研究会, pp.12-22, 2013 年 9 月.
- 佐藤伸宏 「〈協訳〉のテクスト—Kuni Matsuo et Steinilber-Oberlin, *Anthologie des Poètes japonaise contemporains* をめぐって—」, 『東北大学文学研究科研究年報』第 63 号, 東北大学文学研究科, pp.1-33, 2014 年 3 月.
- 佐藤伸宏 「中原中也の詩の可能性(下)—「一つのメルヘン」の成立—」, 『文芸研究』第 177 集, 日本文芸研究会, pp.14-25, 2014 年 3 月.
- 佐藤伸宏 「「潔白の独立親和」—『惜別』の成立と小田嶽夫『魯迅伝』」, 『太宰治研究』第 23 輯, 2015 年 6 月.
- 佐倉由泰 「「友」なき戦場—『平家物語』の合戦記述—」, 『武蔵野文学』第 58 集, 武蔵野書院, pp.8-14, 2010 年 12 月.
- 佐倉由泰 「『太平記』と「気」」, 佐伯真一編『中世文学と隣接諸学 4 中世の軍記物語と歴史叙述』, 竹林舎, pp.211-237, 2011 年 4 月.
- 佐倉由泰 「『平家物語』における祝祭的表象」, 鈴木則郎編『平家物語〈伝統〉の受容と再創造』, おうふう, pp.65-104, 2011 年 5 月.
- 佐倉由泰 「リテラシーの動態を捉える文学史は可能か」, 『文学・語学』第 200 号, pp.54-69, 2011 年 7 月.
- 佐倉由泰 「軍記物語の表現の古態を考えるとということ」, 千明守編『平家物語の多角的な研究』, ひつじ書房, pp.3-21, 2011 年 11 月.
- 佐倉由泰 「『天正記』の機構と十六世紀末の文化・社会の動態」, 説話文学会編『説話から世界をどう解き明かせるのか 説話文学会設立 50 周年記念シンポジウム [日本・韓国] の記録』, 笠間書院, pp.282-307, 2013 年 6 月.
- 佐倉由泰 「真名表記が可能にしたもの—『桂川地蔵記』の考察を起点として—」, 『日本文学』第 63 巻第 7 号, pp.45-57, 2014 年 7 月.
- 佐倉由泰著, 池睿訳 「軍記物語的文学特質と文化意義」(日本語名「軍記物語の文学的特質と文化的意義」), 『中日文化文学比較研究 2014』, 吉林出版集團外語教育有限公司, pp.166-178, 2014

- 年 8 月.
- 佐倉由泰「「顔」とは何か」, 『日本顔学会誌』第 14 巻第 1 号, pp.13-19, 2014 年 10 月.
- 佐倉由泰「軍記物語の表現史を構想するために—真名表記テキストに着目して—」, 『文学（隔月刊）』第 16 巻第 2 号（2015 年 3・4 月号）, 岩波書店, pp.70-87, 2015 年 3 月.
- 佐倉由泰「境界としての「北」、接点としての「北」」, 『文学・語学』第 212 号, pp.38-48, 2015 年 4 月.
- 横溝博「『和歌知頭集』と源経信—仮托者の風景—」, 前田雅之編『（中世文学と隣接諸学 5）中世の学芸と古典注釈』, 竹林舎, pp.402-419, 2011 年 9 月.
- 横溝博「按察家の人々—『海人の刈藻』を中心として—」, 久下裕利編『源氏以後を考える—継承の構図』, 武蔵野書院, pp.171-202, 2012 年 5 月.
- 横溝博「院政期物語としての『海人の刈藻』—『栄花物語』もしくは藤原頼通の時代からの継承—」, 中野幸一編『平安文学の交響—享受・摂取・翻訳』, 勉誠出版, pp.232-252, 2012 年 5 月.
- 横溝博「『源氏物語』女三宮の裳着と機能—姫君たちの裳着の場面に着目して—」, 小嶋菜温子編『源氏物語と儀礼』, 武蔵野書院, pp.437-457, 2012 年 12 月.
- 横溝博「国宝『源氏物語絵巻』にあらわれる〈男〉と〈女〉」, 東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『男と女の文化史(人文社会科学講演シリーズVI)』, 東北大学出版会, pp.3-43, 2013 年 3 月.
- 横溝博「『いはでしのぶ』典拠攷—韻文編—（巻一）」, 『東北大学文学研究科研究年報』第 62 号, pp.238-264, 2013 年 3 月).
- 横溝博「『いはでしのぶ』典拠攷—韻文編—（巻二）」, 『東北大学文学研究科研究年報』第 63 号, pp.285-314, 2014 年 3 月).
- 横溝博「『いはでしのぶ』典拠攷—韻文編—（巻三～八、冷泉家本）」, 『東北大学文学研究科研究年報』第 64 号, pp.135-168, 2015 年 3 月).
- 横溝博「『栄花物語』と中世王朝物語の関係について—『風につれなき物語』を例として—」, 加藤静子・桜井宏徳編『王朝歴史物語史の構想と展望』, 新典社, pp.524-546, 2015 年 3 月).

横溝博 「『源氏物語』月光と降雪の美をめぐる覚え書き」, 『平安朝文学研究』復刊第 23 号, pp.36-38, 2015 年 3 月) .

高橋早苗 「『白露』論—男君の「心」に着目して—」, 『日本文芸論叢』第 21 号, 東北大学国文学研究室, pp.1-12, 2012 年 3 月

高橋早苗 「『白露』論—「露のあはれ」歌の解釈をめぐる—」, 『日本文芸論稿』第 35 号, 東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』編集委員会, pp.29~40, 2012 年 3 月.

高橋早苗・久保堅一 「『源氏物語』『紫式部日記』『紫式部集』と『白氏文集』研究文献目録」, 仁平道明編『源氏物語と白氏文集』, 新典社, pp.311~329, 2012 年 5 月.

高橋早苗 「「母」の出家の物語—『夜の寝覚』論—」, 『国語と国文学』第 89 卷 9 号, 東京大学国語国文学会, pp.18~32, 2012 年 9 月.

1-2 著書・編著

佐藤伸宏『詩の在りか—口語自由詩をめぐる問い』, 笠間書院, 261p, 2011 年 3 月.

佐藤伸宏『東北近代文学事典』(共編著), 勉誠出版, 775p, 2013 年 6 月.

佐倉由泰『軍記物語の機構』, 汲古書院, 539p, 2011 年 2 月.

佐倉由泰『『大塔物語』をめぐる知の系脈』, 日本学術振興会 2009~2012 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」(研究代表者 佐倉由泰) 報告書, 204p, 2013 年 3 月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 書評

佐藤伸宏 「山本康治著『明治詩の成立と展開』」, 『日本近代文学』第 87 集、日本近代文学会, 2012 年 10 月.

佐藤伸宏 「秋草俊一郎著『ナボコフ 訳すのは「私」 自己翻訳がひらくテキスト』」, 『比較文学』第 55 卷, 日本比較文学会, 2013 年 3 月.

佐藤伸宏 「相沢直樹著『甦る「ゴンドラの唄」』」, 『山形新聞』, 2013 年 3 月 3 日.

佐倉由泰 「錦仁著『なぜ和歌^{うた}を詠むのか 菅江真澄の旅と地誌』」, 『説

- 話文学研究』第 47 号，説話文学会，pp.259-262，2012 年 7 月。
- 佐倉由泰 「松尾葦江・小口雅史他解題『内閣文庫所蔵史籍叢刊 古代中世篇 第八卷 源平闘諍録 将門記抜書 陸奥話記』，『弘前大学国史研究』第 134 号，弘前大学国史研究会，pp.39-45，2013 年 3 月。
- 佐倉由泰 「原田敦史著『平家物語の文学史』」，『国語と国文学』第 91 卷第 4 号，pp.75-79，2014 年 4 月。
- 横溝博 「熊谷義隆著『源氏物語二つのゆかり—継承の主題と変化—』」，『文藝研究』第 170 集，日本文芸研究会，pp.70-71，2010 年 9 月。
- 横溝博 「勝亦志織著『物語の〈皇女〉—もうひとつの王朝物語史—』」，『平安朝文学研究』20 号，pp.96-99，2011 年 3 月。

(2) 解説

- 佐藤伸宏 「手套を脱ぐ手ふと休む—『一握の砂』の新しさ」，『石川啄木の世界』，仙台文学館，pp.70-71，2014 年 4 月。
- 佐倉由泰 「日本の文化を支えた真名の世界」，東北大学広報誌『まなびの杜』No.57 (2011 秋号)，東北大学，表紙 (表・裏)，2011 年 9 月。
- 佐倉由泰 「「緑」—御伽草子『ものくさ太郎』に学ぶ—」 (座小田豊・尾崎彰宏編『今を生きる—東日本大震災から明日へ！ 復興と再生への提言— 1 人間として』，東北大学出版会，pp.45-62，2012 年 3 月。
- 佐倉由泰 「学界時評・中世」，『アナホリッシュ国文学』第 5 号，響文社，pp.212-213，2013 年 12 月。
- 佐倉由泰 「学界時評・中世」，『アナホリッシュ国文学』第 7 号，響文社，pp.136-137，2014 年 8 月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究の展望—物語受容の観点から—」，『鳳翔学叢』第 8 輯，平等院，pp.63-67，2012 年 3 月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究 (一)—注釈編—」，『鳳翔学叢』第 8 輯，平等院，pp.53-118，2012 年 3 月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究 (二)—注釈編—」，『鳳翔学叢』第 9 輯，平等院，pp.33-90，2013 年 3 月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究 (三)—注釈編—」，『鳳翔学叢』第 10 輯，平等院，pp.49-88，2014 年 3 月。

(3) 辞典項目等

佐藤伸宏 「石井昌光」「庄司直人」「白鳥省吾」「杉捷夫」「土居光知」「土井晩翠」「富永太郎」「吉野臥城」「近代作家と東北〈宮城県〉」「教育機関と文学〈宮城県〉」, 『東北近代文学事典』, 勉誠出版, pp.33, 282, 285-286, 294, 364, 364-365, 374-375, 544-545, 579-583, 602-604, 2013年6月.

佐倉由泰 「安藤右宗」「今井兼平」「越後中太家光」「落合兼行」「平忠盛」「平為員」「平将門」「平正盛」「巴」「中原兼遠」「中原基兼」「樋口兼光」「便女」「藤原秀衡」「源行家」「将門記」「陸奥話記」, 『平家物語大事典』, 東京書籍, pp.17, 34-35, 51, 68, 242-243, 243, 257, 257-258, 306-307, 309, 309-310, 335-336, 340-341, 372-373, 416-417, 590, 670-671, 2010年11月.

佐倉由泰 「応仁記」「義経記」「軍記物語」「源平盛衰記」「承久記」「将門記」「曾我物語」「平家物語」「平治物語」「保元物語」「陸奥話記」, 『日本語大事典』, 朝倉書店, pp.210, 476, 610-611, 722, 1057, 1095, 1241, 1808-1809, 1811, 1886-1887, 1978, 2014年11月.

横溝博 「後期物語の特質」, 榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』, ミネルヴァ書房, pp.115, 2010年5月.

横溝博 「説話の種々相」, 榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』, ミネルヴァ書房, pp.129, 2010年5月.

横溝博 「中世〔練習問題、解説・解答〕の一部」, 『日本文学検定公式問題集〔古典・近現代〕2級』, 新典社, pp.158-159, 179-180, 197-198, 2011年7月.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会・国際シンポジウム

佐藤伸宏 「日本研究の方法：一国研究をこえて」, 単独, 第2回東アジア日本研究フォーラム, 国際交流基金, 松島センチュリーホテル／松島市, 2011年12月9日.

佐倉由泰 「十五、十六世紀の日本の文化と物語」, 単独, 立教大学SFR国際会議「二重の異文化としての中世 未来の起点としての過去への新たな視点」, 立教大学, 立教大学／東京都, 2013年6月22日.

横溝博 「牢屋奉行の源氏学—『窺原抄』の成立について—」，単独，EAJS(European Association for Japanese Studies)国際会議，EAJS，タリン大学／エストニアタリン，2011年8月。

横溝博 「“*Shôhaku mondôshô*” (Shôhaku’s Notes of Questions and Answers): the Shimabara Matsudaira Manuscript and two Fragments」，単独，第4回日独6大学長会議 (HeKKSaGOn (ヘキサゴン))，東北大学，2015年4月17日。

(2) 国内学会

佐藤伸宏 「オノマトペの翻訳 (不) 可能性—中原中也フランス語訳詩集 NAKAHARA Chuya, *Poèmes* をめぐって」，単独，比較文学研究会，日本比較文学会東北支部，仙台市青年文化センター／仙台市，2010年7月31日。

佐藤伸宏 「〈協訳〉のテクスト—Kuni Matsuo et Steinilber-Oberlin, *Anthologie des Poètes japonais contemporains* をめぐって」，単独，2012年度日本比較文学会東北大会，日本比較文学会東北支部，山形テルサ／山形市，2012年11月17日。

佐倉由泰 「『太平記』と「気(機)」」，単独，軍記・語り物研究会2010年度大会，軍記・語り物研究会，大学コンソーシアムあきた カレッジプラザ／秋田市，2010年8月30日。

佐倉由泰 「蝦夷研究会50回記念公開シンポジウム 蝦夷から平泉藤原氏へ—蝦夷、安倍・清原・藤原氏」のコメントーター・パネリスト，蝦夷研究会，岩手大学／盛岡市，2010年9月18日。

佐倉由泰 「武士の滅罪の表象を考える—奥州藤原氏と源氏の人々をめぐる表現を中心に—」，単独，第62回美学会大会 シンポジウム「浄罪の場所」表象の東西—この世・あの世または第三の場所—」，美学会，東北大学／仙台市，2011年10月16日。

佐倉由泰 「柳田國男と軍記物語」，単独，東北文化研究室公開講演会 柳田國男五十年祭記念シンポジウム「柳田國男と東北大学」，東北大学大学院文学研究科，東北大学／仙台市，2011年11月19日・20日。

佐倉由泰 「『天正記』の機構と十六世紀末の文化・社会の動態」，単独，2012年度説話文学会大会 (学会創立五十周年記念大会) シンポジウム

第三セッション「説話と地域・歴史叙述—転換期の言説と社会—」，
説話文学会，立教大学／東京都，2012年6月24日。

佐倉由泰 「「顔」とは何か」，単独，第18回日本顔学会大会（フォーラム顔学 2013）シンポジウム「機縁としての顔～復興の狼煙と哲学・文学・心理学」，日本顔学会，東北大学／仙台市，2013年11月10日。

佐倉由泰 「『太平記』における「義」と「機」—新田義貞の造型に着目して—」，単独，日本文学協会第34回研究発表大会，日本文学協会，いわき明星大学／いわき市，2014年7月12日。

佐倉由泰 「『太平記』に「悪党」はいるのか」，単独，第18回中世戦記研究会，中世戦記研究会，東洋大学／東京都，2014年10月11日。

横溝博 「按察家の人びと—『海人の刈藻』論を中心に—」，日本文芸研究会平成22年度第1回研究発表会，日本文芸研究会，東北大学／仙台市，2010年9月11日。

横溝博 「藤原頼通の時代の文化と文芸世界」，日本文芸研究会平成24年度研究発表大会，日本文芸研究会，東北大学／仙台市，2014年6月14日。

高橋早苗 「『白露』論—「露のあはれ」歌の解釈をめぐって—」，東北大学文芸談話会平成23年度第3回研究発表会，東北大学文芸談話会，東北大学／仙台市，2012年2月20日。

高橋早苗 「「もの思ひ」「添ふ」身—『源氏物語』の人々—」，日本文芸研究会平成24年度第1回研究発表会，日本文芸研究会，東北大学／仙台市，2012年9月8日。

2 教員の受賞歴（2010年度～2015年5月20日）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

（1）科学研究費補助金

2010年度 課題番号：20520153 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」
600,000円（1年間総額）

2010年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古

- 代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 650,000 円（1 年間総額）
- 2010 年度 課題番号；225042 研究成果公開促進費 学術図書 代表者：佐倉由泰『軍記物語の機構』（出版社：汲古書院，2011 年 2 月 28 日発行） 1,700,000 円（総額）
- 2011 年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 650,000 円（1 年間総額）
- 2011 年度 課題番号：23720099 若手研究（B）研究代表者：横溝博「『海人の刈藻』を中心とする院政期物語文学研究の開拓」 1,500,000 円（1 年間総額）
- 2012 年度 課題番号：24520381 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「日本近代詩の外国語翻訳に関する総合的研究」 910,000 円（1 年間総額）
- 2012 年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 1,170,000 円（1 年間総額）
- 2012 年度 課題番号：24520004 基盤研究（C）研究代表者：戸島貴代志「対話の時間性—機—の諸相について—」 1,560,000 円（1 年間総額）の研究分担者：佐倉由泰
- 2012 年度 課題番号：23720099 若手研究（B）研究代表者：横溝博「『海人の刈藻』を中心とする院政期物語文学研究の開拓」 900,000 円（1 年間総額）
- 2013 年度 課題番号：24520381 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「日本近代詩の外国語翻訳に関する総合的研究」 520,000 円（1 年間総額）
- 2013 年度 課題番号：25580052 挑戦的萌芽研究 研究代表者：佐倉由泰「都鄙観念から考える日本文学史、日本文化史の研究」 910,000 円（1 年間総額）
- 2013 年度 課題番号：24520004 基盤研究（C）研究代表者：戸島貴代志「対話の時間性—機—の諸相について—」 1,820,000 円（1 年間総額）の研究分担者：佐倉由泰
- 2013 年度 課題番号：23720099 若手研究（B）研究代表者：横溝博「『海人の刈藻』を中心とする院政期物語文学研究の開拓」 900,000 円（1

年間総額)

2014年度 課題番号：24520381 基盤研究(C) 研究代表者：佐藤伸宏「日本近代詩の外国語翻訳に関する総合的研究」 520,000円(1年間総額)

2014年度 課題番号：25580052 挑戦的萌芽研究 研究代表者：佐倉由泰「都鄙観念から考える日本文学史、日本文化史の研究」 650,000円(1年間総額)

2014年度 課題番号：24520004 基盤研究(C) 研究代表者：戸島貴代志「対話の時間性—機(はこ)の諸相について—」 1,560,000円(1年間総額)
の研究分担者：佐倉由泰

2014年度 課題番号：26370199 基盤研究(C) 研究代表者：横溝博「源氏学における古典〈知〉の継承と石出常軒『窺原抄』の成立をめぐる文化学的研究」 1,600,000円(1年間総額)

2015年度 課題番号：25580052 挑戦的萌芽研究 研究代表者：佐倉由泰「都鄙観念から考える日本文学史、日本文化史の研究」 650,000円(1年間総額)

2015年度 課題番号：26370199 基盤研究(C) 研究代表者：横溝博「源氏学における古典〈知〉の継承と石出常軒『窺原抄』の成立をめぐる文化学的研究」 600,000円(1年間総額)

(2) その他

なし

V 教員による社会貢献(2010年度～2015年度)

(1) 政府・地方公共団体の委員等

佐藤伸宏 教授

仙台文学館運営協議会委員 2004年4月から、現在に至る。

仙台文学館運営協議会会長 2008年4月から、現在に至る。

佐倉由泰 教授

国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2003年4月～2007年3月、
2008年4月から、現在に至る。

公益財団法人仙台市市民文化事業団理事 2012年4月から、現在に至る。

国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍のデータベースの構築計画」連携拠点委員会委員 2013年4月から、現在に至る。

東北大学出版会理事 2015年4月から、現在に至る。

横溝 博 准教授

国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2010年4月～現在に至る。

大学入試センター教科科目第一委員会委員 2013年4月～2015年3月。

国文学研究資料館客員准教授 2014年4月～2015年3月。

(2) 講座・講演等

佐藤伸宏 教授

東北大学文学部オープンキャンパス公開講座 講師、「詩が生まれるところ」，東北大学，2010年7月28日。

2013年晩翠忌記念行事 講師、「草野心平の蛙の詩」，仙台文学館，2013年10月20日。

平成26年度秋田県高等学校教育研究会国語部会全県国語教育研究大会 講師、「詩における「ことばの力」」，角館広域交流センター，2014年10月24日。

佐倉由泰 教授

藤女子大学日本語・日本文学科特別公開講演会 講師、「『平家物語』の表現世界の機構を問う―源行家の表象に着目して―」，藤女子大学，2010年9月10日。

仙台文学館ゼミナール2010 講師、「『平家物語』を読む」，仙台文学館，2010年9月14日・9月28日・10月12日・10月26日・11月9日。

東北大学市民オープンキャンパス紅葉の賀 公開講演会 講師、「古典文学に見る、萩の名所 宮城野の成り立ち」，東北大学，2010年11月3日。

仙南高校サマーカレッジ 講師、「日本の古典文学について考える ―文学表現を発見的に読むために―」，宮城県白石高等学校，2011年7月19日。

第4期齋理蔵の講座 「〈男〉と〈女〉」講師、「文学表現における〈男〉と〈女〉―真名と仮名をめぐる―」，宮城県丸森町丸森まちづく

りセンター，2011年8月6日。

科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：清水由美子「軍記文学における〈中央〉と〈地方〉に関する多角的研究」研究会 講師，「軍記物語と東海道一鎌倉という基点に着目して―」，学士会館，2011年9月11日。

仙台文学館ゼミナール 2011 講師，「『平家物語』を読む」，仙台市青年文化センター，2010年9月13日・9月27日・10月4日・10月18日・10月25日。

仙台文学館ゼミナール 2012 講師，「藤原清衡と文学」，仙台文学館，2012年9月4日・9月25日・10月2日・10月16日・10月30日。
宮城県高等学校国語科研修会講師，「古典文学読解の視点」，宮城県教育研修センター，2012年9月11日。

仙台文学館ゼミナール 2013 講師，「『義経記』の世界」，仙台文学館，2013年9月3日・9月10日・10月1日・10月15日・10月29日。

東北大学 107 周年 萩友会関西交流会 講師，「『太平記』の時代の旅路をたどる―日本文化を発見的に考えるために―」，新大阪江坂東急イン，2014年3月1日。

横溝博 准教授

宮城県仙台第二高等学校「一日大学」講師，「『源氏物語』とは何か？」，宮城県仙台第二高等学校，2010年12月2日。

第10期有備館講座「〈男〉と〈女〉」〔東北大学大学院文学研究科市民のための公開講座第10期〕講師，「平安文学の〈男〉と〈女〉」，大崎市岩出山公民館（スコーレハウス），2011年7月16日。

東北大学文学部オープンキャンパス公開講義 講師，「貸す・借りる・写す―平安文学の伝わりかた」，東北大学川内北キャンパス，2011年7月28日。

宮城県吟道連盟吟道講座 講師，「和歌史 1300 年―万葉から現代まで―」，仙台メディアテーク，2012年6月22日。

黒陵出前講座講師，「文献学から文芸学へ―『更級日記』を例として―」，黒沢尻北高等学校，2012年10月31日。

放送大学面接授業（宮城），「清少納言『枕草子』を読む」，2013年11月9日，10日

仙台文学館ゼミナール 2014 講師, 「清少納言『枕草子』を読む」, 仙台文学館, 2014 年 9 月 7 日・9 月 21 日・10 月 5 日・11 月 2 日・11 月 16 日.

放送大学面接授業 (宮城), 「失われた『源氏物語』をもとめて」, 2014 年 11 月 29 日, 30 日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2010 年度～2015 年度)

佐藤伸宏 教授

日本文芸研究会 委員 1985 年 6 月から, 現在に至る。

日本文芸研究会 代表委員 2014 年 6 月から, 現在に至る。

日本文芸研究会 岡崎義恵学術研究奨励賞選考委員 2004 年 6 月～2010 年 6 月。2014 年 6 月から, 現在に至る。

日本比較文学会 東北・北海道支部役員 1992 年 12 月から, 現在に至る。

日本比較文学会 全国理事 2005 年 6 月から, 現在に至る。

日本比較文学会 代表理事 2015 年～

日本比較文学会 東北支部支部長 2008 年 10 月～2013 年 6 月。

日本比較文学会 学会賞選考委員会委員長 2011 年 6 月～2012 年 6 月。

日本比較文学会 大会組織委員会委員長 2014 年 6 月から, 現在に至る。

日本比較文学会 学会賞選考委員会委員 2011 年 6 月～2013 年 6 月。

日本近代文学会 評議員 2008 年 4 月から, 現在に至る。

佐倉由泰 教授

日本文芸研究会 委員 2003 年 6 月から, 現在に至る。

日本文学協会 委員 2003 年 12 月～2007 年 11 月, 2009 年 12 月～2013 年 11 月, 2014 年 12 月から, 現在に至る。

日本文芸研究会 岡崎義恵学術研究奨励賞選考委員 2010 年 6 月から, 現在に至る。

横溝博 准教授

日本文芸研究会 委員 2010 年 6 月から, 現在に至る。

中古文学会 常任委員 2013 年 6 月～2013 年 10 月。

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2015 年度)

1 大学院授業担当

佐藤伸宏 教授

- 1 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法
- 2 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法
- 1 学期 日本文芸形成論研究演習 昭和文学の研究
- 2 学期 日本文芸形成論研究演習 昭和文学の研究
- 1 学期 日本文芸形成論研究演習 日本文学研究の〈領域〉再考
- 2 学期 日本文芸形成論研究演習 日本文学研究の〈領域〉再考

佐倉由泰 教授

- 1 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法
- 2 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法
- 1 学期 日本文芸形成論研究演習 説話集の表現形成
- 2 学期 日本文芸形成論研究演習 説話集の表現形成

横溝博 准教授

- 1 学期 国文学特論 『伊勢物語』の探究
- 2 学期 国文学特論 王朝和歌の探究 歌合編
- 1 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法
- 2 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

2 学部授業担当

佐藤伸宏 教授

- 1 学期 国文学概論 日本近代文芸の諸問題
- 1 学期 国文学演習 昭和文学の研究
- 2 学期 国文学演習 昭和文学の研究

佐倉由泰 教授

- 2 学期 国文学概論 日本古典文芸の世界
- 1 学期 国文学基礎講読 『無名抄』を読む
- 1 学期 日本文芸形成論各論 『平家物語』の研究
- 2 学期 日本文芸形成論各論 『平家物語』の研究
- 1 学期 国文学演習 説話集の研究
- 2 学期 国文学演習 説話集の研究

横溝博 准教授

- 2 学期 国文学基礎講読 『土左日記』を読む
- 1 学期 国文学各論 『源氏物語』の流布と継承
- 2 学期 国文学各論 院政期物語の成立と展開
- 1 学期 国文学演習 『伊勢物語』の研究
- 2 学期 国文学演習 王朝和歌の研究 歌合編

3 共通科目・全学科目授業担当

(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

佐藤伸宏 教授

- 宮城学院女子大学学芸学部 2006 年度～2015 年度
- 都留文科大学 2011 年度

佐倉由泰 教授

- 宮城教育大学 2005 年度～2008 年度・2010 年度～2013 年度
- 宮城学院女子大学学芸学部 2008 年度～2015 年度
- 宮城学院女子大学大学院人文科学研究科 2009 年度～2015 年度
- 放送大学宮城学習センター 2010 年度
- 藤女子大学 2010 年度
- 岩手大学人文社会科学部 2014 年度

横溝博 准教授

- 放送大学宮城学習センター 2013 年度～2014 年度
- 宮城学院女子大学学芸学部 2014 年度～2015 年度